

# 里海学びの講座⑤

## 開催しました！



- 日時 令和2年1月25日（土）10：00～12：00
- 会場 瀬戸内海歴史民俗資料館
- 講師 瀬戸内海歴史民俗資料館 館長 田井 静明 氏  
川西 敦 氏

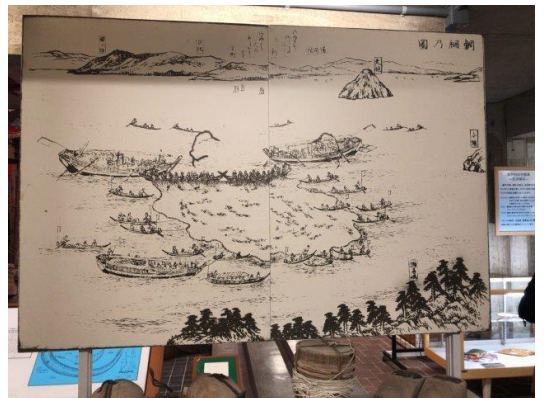
1月25日（土）、瀬戸内海歴史民俗資料館にて、瀬戸内海歴史民俗資料館館長の田井氏と同職員  
の川西氏を講師に迎え、「里海学びの講座⑤」を開催しました。初めに、川西氏より、「魚と民  
俗」と題して講義がありました。

瀬戸内海にゆかりのある魚の中から、「ボラ」、「スズキ」、「ハモ」、「イカ」、「ハギ」、  
「アイゴ」について、魚の特徴や生態の説明や、古くは明治時代や昭和20年代から現代にいたるま  
での漁法や漁具の変遷や、実際に資料館に展示されている漁具の紹介、漁獲量と単価の経年変化な  
どを、時代背景の補足もしつつ、詳しく解説いただきました。過去に行われていた漁法として、ボ  
ラの「寄魚漁」、スズキの「まきえ漁」、ハモの「延縄漁」、イカの「イカ巢」を使った漁、ハギ  
の「すくい網」、アイゴの「アイゴホミ」などの紹介がありました。漁業には時代背景が密接に関  
係していて、漁法や、漁獲量に影響をもたらし、今では想像もつかない漁法によって漁獲され市場  
に流通していた事を学びました。

受講者からは、「瀬戸内海が綺麗になりすぎて漁獲量が減っていると新聞で見たが、実際はどう  
なのか。具体的に何が影響しているのか。」といった質問がありました。



明治41年に仁尾（三豊市）でボラ10万尾の大漁を  
記念して描かれた「ボラ漁絵馬」



GPSの無い時代には山などの特徴を目印にして漁を  
行っていたそうです。

続いて、田井館長による館内展示物の案内・解説が行われました。



瀬戸大橋の計画時に地盤が適しているかボーリング調査をした際の実物が展示されています。



漁具「ブリ木・カズラ縄」はタイ網漁で使用されたそうです。



瀬戸内の突き漁具 (カナツキとモリ)



漁具「シオミイシ」は、タイ網を投入するタイミングを知るのに必要なもの

川西氏の座学で紹介されたイカ巢やすくい網、アイゴホミなどの漁具の実物を見て理解を深める事ができました。江戸時代の終わり頃、備前瀬戸がタイの好漁場で、伝統的な漁具として、「ブリ木」、「カズラ網」、「シオミイシ」などが利用されていた事や、タコツボ漁やクジラ漁に使われた漁具や漁船、当時の漁師の様子など、瀬戸内の漁業に関する歴史背景を様々な角度から詳しく解説していただきました。受講生にとっては初めて見るものや知る事が多く、田井館長の解説を受講生は熱心に聞き入っていました。

講座終了後のアンケートでは、「海との関わりについて、専門家から教えてもらって大変有意義だった。」、「田井館長のお話は聞き耳を立て引き込まれました。川西さんのお話から瀬戸内海の魚の現状が理解出来ました。」等の声がありました。